

P D C A サイクル表 (2 0 2 0 年度自己評価・中長期計画一覧表)

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
1	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	国家試験合格率の維持・向上	<p>◆3学科 引き続き、国家試験合格率の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。 (鍼灸学科追加) 新2年生に対して春休みに14経絡の経穴名を順番に覚えさせ、新学期オリエンテーション時に試験を実施しどの程度経穴を覚えたかを確認する。看護学科：前期についてはwebを用いて課題学習および指導を実施。後期は従来同様、補講を実施予定。 (看護学科追加) 前期についてはwebを用いて課題学習および指導を実施。後期は従来同様、補講を実施予定。</p>	<p>鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：○ 看護学科：○</p>	<p>◆鍼灸学科 新学期オリエンテーションで新3,4年生を対象とした実力試験と国家試験ガイダンスを行う予定であったが、コロナ感染の影響により実施できず、初回総合実力試験は6月中旬となった(その後、総合実力試験(4年生対象、対面)と国試対策補講(遠隔)を実施)。その他、卒業論文指導教員による個別学習指導(遠隔)、特に4年生の成績下位者を対象とした補講(遠隔)を実施。 コロナ感染の影響による国試対策の遅れを取り戻すことができず、国試合格率は約80%と低迷した。 本年度より開始予定であった、新2年生に対しての新学期オリエンテーション時の経穴試験は実施できず。 ◆柔道整復学科 計画通り、年間に実施する模擬試験や個別面談の回数を増やし、学生の習熟度の評価を細かく行ったほか、カリキュラム外の補講もオンラインを用いて回数を増やすなどの対策を実施したが、目標の合格率(100%)を達成することができなかった。 ◆看護学科 補講および模擬試験等、国家試験対策を実施し、保健師は全員合格したが、看護師は不合格者があり100%合格は達成できず。</p>	◆3学科 引き続き、国家試験合格率の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。		
2	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	成績上位者に対する研究意欲向上のための施策	<p>◆鍼灸学科 引き続き、卒業研究の早期開始(成績上位者)。</p>	<p>鍼灸学科：○</p>	<p>◆鍼灸学科 各教員が学生の学修状況を見ながら働きかけるよう心掛けた結果、3年後学期で卒業研究に入る際に研究に興味を示す学生が増え、令和2年度3年生では大学院進学希望者が2~3名出てきた。しかしながら、研究に着手できるだけの学力がある学生が少ないのが現状である。</p>			
3	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	出欠管理の徹底による出席不良者への指導	<p>◆3学科 引き続き、アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。</p>	<p>鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎</p>	<p>◆鍼灸学科 講義終了後に各教員が出欠席をアクティブポータル欠席票に記入したことにより、アクティブポータル上で欠席が多い学生の把握ができた。学科内での成績不良の学生についての情報共有を学科共有ファイルで図ることにより、学生アドバイザーや講義担当者による早期の対応ができた。コロナ感染の影響による支障は特になかった。 ◆柔道整復学科 アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)を活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ◆看護学科 出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。学年リーダーの教員も状況を把握し、必要に応じてアドバイザーへの助言を実施。</p>	◆3学科 引き続き、アクティブポータルの出欠確認の設定(アラートメール)活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。		
4	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	学力把握のためのアドバイザー制度の充実	<p>◆3学科 引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。</p>	<p>鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎</p>	<p>◆鍼灸学科 アドバイザーを中心に、アクティブポータルの利用や当該学年の科目担当者、教務課、学生課、学生相談室と連携して学生の状況を把握をした。成績不良者に対しては早期に面談を行い、その状況を毎月の学科会議の学生の動向で報告し、学科全教員でその状況を共有し全員でのサポート体制を取った。また必要に応じて保護者面談も行った。 ◆柔道整復学科 期末試験終了後、教員へ成績一覧を配布し、再試験科目の多い学生について、情報共有を徹底したことで、アドバイザーから早期の指導を行うことができた。 ◆看護学科 アドバイザーによる成績の把握および成績不良者への指導を徹底。指導においては、学年リーダーの教員が状況を把握し、必要に応じてアドバイザーへの助言を行った。</p>	◆3学科 引き続き、アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。		

P D C A サイクル表 (2 0 2 0 年度自己評価・中長期計画一覧表)

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
5	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	カリキュラムの検討及び改善	◆3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。 (看護学科追加) 新たなカリキュラムの導入と評価	◆鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：○	◆鍼灸学科 令和2年度より卒業論文提出フォーマットにA4・1枚の要旨フォーマットを加え、研究テーマも国家試験に直結するような内容として実施し、成績下位者と指導教員の卒業研究に係る負担を減らし、国家試験に向けての学習、指導に専念できるようにした。コロナ感染により実験研究ができないなど大きな影響を受けたが、指導教員の卒業論文についての正味負担は軽減された。 定例学科会議で3ポリシーの見直しについて検討し、大学入試改革に伴う入試名の変更などに伴うマイナー修正を行った。 ◆柔道整復学科 新旧カリキュラムに対して、全て学科内の教員で担当し、新科目も問題なく導入できた。 ◆看護学科 2019年度から新カリキュラムを導入した。	◆3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。		
6	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	教養特講による基礎学力の強化	◆看護学科 引き続き、1-2年生融合科目化による基礎学力の向上のための教養特講の実施及び評価。	看護学科：◎	◆看護学科 令和元（2019）年度新カリキュラムから、ゼミナール形式の授業を1年生から導入し、少人数グループによる基礎学力の向上を図った。	◆看護学科 引き続き、1-2年生融合科目化による基礎学力の向上のための教養特講の実施及び評価。	◆看護学科 引き続き、1-2年生融合科目化による基礎学力の向上のための教養特講の実施及び評価。 ゼミナール導入による基礎学力の強化については、次年度以降引き続き旧カリキュラム学生との対照において効果をモニターしていく。	
7	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	学部の充実を意図した教育内容の評価	◆教務課 引き続き、 ① 教養教育と専門教育が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しを実施。 ② 医療職として長期的ビジョンに立ったキャリア形成ができるキャリア教育の充実。 ③ 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善。	教務課：○	◆教務課 ・「教学マネジメントー教育の質の向上」をテーマにFD研修会をオンライン（オンデマンド）で実施した。 ・2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、対面授業とオンライン授業の併用で授業を実施したが、文部科学省が求める「面接授業と遠隔授業の効果的実施等による学修機会の確保」を学内で検討する必要がある、他大学の取り組み状況を参考にしながら、実効性のある編成を心掛ける。	◆教務課 引き続き、 ① 教養教育と専門教育が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しを実施。 ② 医療職として長期的ビジョンに立ったキャリア形成ができるキャリア教育の充実。 ③ 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善。	◆教務課 引き続き、3学科と連携し、次の通り取り組む。 ① 教養教育と専門教育が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しを実施。 ② 医療職として長期的ビジョンに立ったキャリア形成ができるキャリア教育の充実。 ③ 学生が主体的に学ぶ姿勢や科学的思考を育むための授業内容の工夫や指導方法の改善。 なお、FD研修会では教育の質の向上をテーマにして、教員の意識向上を図り、教授法や評価方法、学生の学修成果の把握などの充実に努めていく。	
8	教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	大学院の充実を意図した教育内容の評価	◆学務部（大学院） 引き続き、専門科目と共通科目が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しの実施。	学務部：○	◆学務部 今年度は教育課程の変更はなかったが、他大学院他研究科の情報収集を行った。 魅力ある科目群の配置と、担当教員のバランスを図る必要がある。	◆学務部（大学院） 引き続き、専門科目と共通科目が連動した体系的な教育を実施するとともに、教育課程の継続的な評価・見直しの実施。	◆学務部（大学院） 引き続き、専門科目と共通科目が連動した体系的な教育を行うとともに、教育課程の継続的な評価・見直しの実施していく。 入学者確保を優先事項とし、社会のニーズに合った教育課程の見直しと各研究科の魅力を生内外に発信していく。	

PDCAサイクル表（2020年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
13	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	学生サポート体制	<p>◆3学科、学務部 引き続き、以下の基本方針で 臨み、毎年改善状況を検証 し、前年比前年改善を目標と する。 入学前から卒業（国試合格・ 就職）までの一貫した学生サ ポート体制の構築 、「少人数制で面倒見のいい 大学」の大学ブランド作り、 本学の取組みを情報公開、広 報活動に反映、受験者・社会 からの信頼確立による定員充 足・学生の質向上・定着率向 上 ①入試成績、各学年成績、国 試結果、就職までの学修行動 追跡調査の結果を分析し学生 指導に反映。教職協働体制を 整備・確立し、卒業までの各 段階で得られる各学生の成績 等を統合して把握可能な体制 の整備。 ②「学生生活・学修時間・行 動」に関する調査の定例化、 IR部門による分析による改 善。（看護 学科追加） アドバイザーとのメールを用 いた連絡体制の強化。 メールおよびGoogle Meetを用 いた個別指導の強化。</p>	<p>鍼灸学科：○ 柔道整復学科：◎ 看護学科：○ 学務部：◎</p>	<p>◆鍼灸学科 遠隔授業への移行は、学生の自宅におけるWiFi などの環境の確認、オンライン講義実施のため の学科内での練習、全教員・学生が共有可能な 時間割の作成などスムーズに行えた。実施後も 遠隔授業の問題点は学科会議で共有し、改善に 努めた。コロナ禍ではあるが、国家試験対策は 科目担当者、学生アドバイザー、国家試験ワー キンググループなど学科全体として継続して 行ったが、各学年における就職セミナーは実施 できなかった。 ◆柔道整復学科 各学生を担当するアドバイザーによるサポート の強化を図り、最終学年の学生に対して面談を 行うことで希望する進路（就職先を含む）を把 握することができた。また、アドバイザーによ る成績不良や欠席の多い学生に対しての面談に より、早期に学生のニーズを把握することがで きた。 ◆看護学科 「少人数制で面倒見のいい大学」を実現するた め、カリキュラムを改定し1年次からゼミナ ル形式の授業を実施。入試および毎年の成績評 価を、効果的な学生指導を行うための情報とし て活用。 ◆学務部 学生相談室及び総合支援室で障害対策や学修支 援など、教員との連携によるサポートを強化。 経済的困難者に対する授業料免除制度及び国の 高等教育修学支援制度の的確な運用に努めた。 退学者の状況・分析を行い、直近の年度につい ては、在学中の成績推移も含めた入学者全員の 卒業までの追跡調査を行った。各学科とも入学 前授業は遠隔で実施。</p>	<p>◆3学科、学務部 左記学生サポート体制の継 続・検証・改善に関する PDCAサイクルの推進。</p>	<p>◆3学科、学務部 左記学生サポート体制の継 続・検証・改善に関するPDCA サイクルの推進。（退学者の 未然防止、在学中の学修困難 者支援体制）</p>	
14	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	教育の質の充実を目的とした授業評価アンケ ートの実施	<p>◆3学科、学務部 引き続き、 ・授業評価アンケートより得 られた結果を教員へフィード バックし個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を 講じ、教員間連携を深めるた めに情報共有体制の強化を実 施。</p>	<p>鍼灸学科：○ 柔道整復学科：◎ 看護学科：○ 学務部：○</p>	<p>◆鍼灸学科 個々の教員への授業評価アンケートのフィード バックされたが、学生による授業評価の解釈は 難しく、学科全体としての情報共有には至ら ず。 遠隔授業に関する学生の要望は、各教員が学生 からのニーズを適宜把握し、学科内で共有して 改善に努めた。 令和2年度の学科生に対するオンラインアン ケートはコロナ感染の影響のため実施せず。 ◆柔道整復学科 各教員に対し、授業評価アンケート結果が フィードバックされた。また、他の教員のアン ケート結果が閲覧可能になったことから、それ らを参考に各教員ごとにレベルアップに努め た。 ◆看護学科 学科会議の際に、授業評価アンケートについて フィードバックを行い、その結果についてそれ ぞれの教員が把握した。 ◆学務部 授業評価アンケートの当該教員へのフィード バックは実施するも、全体で共有して対策す るには至っていない。 今後は、授業評価アンケート結果を全体的に集 計把握して、授業改善に結び付ける方法を検討 する必要がある。</p>	<p>◆3学科、学務部 引き続き、 ・授業評価アンケートより得 られた結果を教員へフィード バックし個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を 講じ、教員間連携を深めるた めに情報共有体制の強化を実 施。</p>	<p>◆3学科、学務部 引き続き、 ・授業評価アンケート結果の フィードバックの仕方を改 善・整備・検討する。 ・学生の要望を把握し対策を 講じ、教員間連携を深めるた めに情報共有体制の強化を実 施。</p>	

PDCAサイクル表（2020年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
15	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	アドバイザーによる学生の学習意欲等の把握（基礎学力の強化と検証の再掲）	◆3学科 引き続き、学生ニーズ等に関わるPDCAサイクルの徹底。	◎ ◎ ◎	◆鍼灸学科 各学年アドバイザーによる出欠席、成績の状況、学生面談や学生との雑談などから学生の状況やニーズについての把握について努めた。 ◆柔整学科 学科会議にてアドバイザーより各担当学生の学習意欲（成績不良、欠席日数）等を報告することで、アドバイザーだけでなく、学科内の教員で学生の現状把握に努めた。 ◆看護学科 アドバイザー、アドバイザーリーダーによる成績不振者、出席不振者を中心とした学習意欲等の把握および個別指導を行った。また、ポータルサイトを活用し、必要に応じて教員間での学生に関わる情報の共有を図り、連携して対応を行った。	◆3学科 引き続き、学生ニーズ等に関わるPDCAサイクルの徹底。		
16	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	意見箱の活用	◆全学 引き続き、投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。	○ ○ ○	◆鍼灸学科 前年度オリエンテーション時に実施した学生ニーズに関するオンラインアンケートは、コロナ感染の影響で実施できなかった。学生ニーズについては遠隔授業で各教員が適宜、学生から吸い上げ、学科内で共有・検討し、遠隔授業に反映できるよう努めた。 ◆柔道整復学科 意見箱の内容について学科会議にて公表及び共有し必要に応じて学科として回答するようにしている。 ◆看護学科 意見箱の内容については、学科として回答を行い、その意見及び回答を共有した。 ◆学務部 意見箱の内容については、学生委員会に報告・検討している（ただし、投函される意見要望件数が少なく、大半が無記名）。	◆全学 引き続き、投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。		
17	教育研究等の質の向上	学生ニーズの把握と分析	積極的な課外活動（サークル活動など）の支援	◆学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。	—	◆学生委員会 コロナ禍の下、サークル活動の自粛を要請した。	◆学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。	◆学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。 学生生活に係る事案をタイムリーかつ年間計画に基づいて協議・推進していく。	
18	教育研究等の質の向上	退学率の改善	留年者、退学者対策	◆3学科、学務部 引き続き、退学者の原因分析調査を実施し、学修行動調査との連携で退学要因の分析を行い、対策を実行。	◎ ○ ◎ ◎	◆鍼灸学科 学年アドバイザーは学生の出欠をアクティブポータルでチェックし、欠席が多い学生については内容を学科共有ファイルに記入し、個別面談・指導を行った。詳細な状況や面談の内容を学科会議で報告し、学科全体で情報を共有し対策について検討した。必要に応じて学生総合支援室の臨床心理士も加わり対応したが、学習障害者、モチベーション低下による成績不良者の対応は難しく、退学者数を減らすまでに至っていない。 ◆柔道整復学科 学生総合支援室と密に連携を取ることで、成績不良や欠席の多い学生、および学業に不安を抱える学生に対して、早期の対応が可能となり、退学者の減少につながった。 ◆看護学科 アドバイザー、アドバイザーリーダーが成績不振者、出席不振者への個別対応し、ポータルサイトを用いてその共有化を推進した。 ◆学務部 学生アドバイザー制度の活用により学生との接点を増やし、学生指導を徹底しつつ、学生総合支援室と教員との連携機会が増加した。成績不振者ガイドラインに基づいた、退学・留年予備軍の把握、学生指導を実施。	◆3学科、学務部 左記学生サポート体制の継続・検証・改善。 PDCAサイクルの推進。		

PDCAサイクル表（2020年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
19	教育研究等の質の向上	退学率の改善	留年者、退学者対策	<p>◆3学科 引き続き、 ・低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。</p>	<p>鍼灸学科：○ 柔道整復学科：◎ 看護学科：○</p>	<p>◆鍼灸学科 1,2年生…学生アドバイザーを中心に期末試験、追再試験の結果や欠席数などをとらえ、問題があると思われる学生について面談・指導を行った。 3年生…上記に加え、卒業担当教員による指導、国家試験ワーキンググループによる補講を実施。 4年生…国家試験ワーキンググループによる夏・冬休暇期間中を含めた年間を通しての補講を実施。 成績不良者については科目担当者、卒業担当者が適宜面談、成績向上に向けての指導を、また問題のある学生については必要に応じ保護者も交え、学生総合支援室の臨床心理士による面談・指導を実施した。 ◆柔道整復学科 前年度行った進級要件の変更により、早期より学生に対して試験対策を含めたアプローチを行うことができ、その結果、留年者、退学者の大幅な減少につながった。 ◆看護学科 アドバイザー、アドバイザーリーダーにより成績不振者、出席不振者へ個別対応を行い、その内容をポータルサイトで共有化し、対応した。</p>	<p>◆3学科 引き続き、 ・低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。</p>		
20	教育研究等の質の向上	退学率の改善	出欠席管理の徹底	<p>◆3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。</p>	<p>鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：△ 看護学科：◎</p>	<p>◆鍼灸学科 アクティブポータルにより早期に欠席の多い学生を見つけ、各学年を担当する学生アドバイザーを中心に学生に注意喚起し、必要に応じて学生相談室と連携して面談・指導を行った。それにより、出席数不足による学期末試験受験不可者の減少に結びついた。また、コロナ感染症に伴う遠隔授業は、学生指導には特に支障はなかった。 ◆柔道整復学科 アラートメールを活用したことで、出席不良者を早期かつ容易に把握することが可能となった。コロナ感染症に伴う遠隔授業のスタート時には出席管理を徹底することができなかった。 ◆看護学科 出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。アドバイザー・学年リーダーの教員が状況を把握し、必要に応じてアドバイザーへの助言を行った。</p>	<p>◆3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。</p>		
21	教育研究等の質の向上	退学率の改善	アドバイザーによる成績不良者等要指導者に対する継続指導の徹底	<p>◆3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。</p>	<p>鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎</p>	<p>◆鍼灸学科 1,2,3年生については各学期終了後、学生アドバイザーが成績を確認し、成績不良者に対し面談・指導を実施した（必要に応じて保護者面談も実施）。 4年生については各総合実力試験の結果を受けて面談、学習指導を行った。一方、従来行っていた総合実力試験状況の保護者宛書面通知（成績のレベルにより内容が異なる）や保護者面談は、コロナ感染の影響もあり実施できなかった。 学科会議での各学年のアドバイザーによる学生の動向報告において、科目担当者などから学生の情報を集め、学習に問題がある学生の早期発見に努めた。また、学習障害など指導に専門的知識が必要とするような場合は、学生相談室の臨床心理士による面談・指導を行った。 ◆柔道整復学科 アラートメールの活用、教員間での成績の共有、学科会議時に学生の動向（気になる学生）の報告を行うことで、早期にアドバイザーが指導を行うことができた。 ◆看護学科 アドバイザーによる指導を徹底し、アドバイザー・学年リーダーの教員も状況を把握し、必要に応じてアドバイザーへの助言を行った。</p>	<p>◆3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。</p>		

PDCAサイクル表（2020年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
22	教育研究等の質の向上	退学率の改善	学生支援室(特別支援教室)設置および支援室への大学院生・研究生・卒業生などの有効利用	◆3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研修生・研究生・外部者などの有効利用開始。	◎	◆鍼灸学科 学生相談室との連携により、臨床心理士による専門的な判断や指導が可能となり、難しい問題を抱える学生に対し専門的で細やかな指導や助言が可能となった。しかしながら、基礎学力の低い学生の増加や、SNSなどの普及による学生が抱える問題が見えづらくなってきたことから、その対応も難しくなっている。 4年生の成績下位者に対する国試対策のサポートについては、研究生や大学院生による協力が大きな助けとなっており、組織的に活用できるようにすれば学生指導により厚みが増すと思われる。 ◆柔道整復学科 学生総合支援室と密に連携を取ることで、大学院生などで大学での生活に不安を抱える学生に対して早期にアプローチを行う体制が整った。 ◆看護学科 必要に応じて、臨床心理士(カウンセラー)や学生課と連携し、学生への対応を行う体制を整え、学生の支援を行った。 ◆学務部 学生総合支援室において学修支援を行っている。また、大学院生によるTA制度を活用し、学部指導補助も行った。	◆3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研修生・研究生・外部者などの有効利用開始。	◆3学科、学務部 引き続き、研修生・研究生・外部者などの有効利用を行う。	
23	教育研究等の質の向上	退学率の改善	経済的側面に対する支援制度の継続的実施	◆財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。 (追加) 申請数の動向を見つつ、対象者を拡大するか検討する。	◎	◆財務部、学務部 東京有明医療大学授業料免除等規則の経済的理由(家計急変を含む)による授業料納入困難者も授業料免除の対象者とし、中途退学防止策とした。 ・令和2年度減免実績 経済的困難者10名(うち家計急変1名)、減免合計金額290万円(うち家計急変40万円) ・同(高等教育無償化関連) 42名、減免合計金額2385.4万円	◆財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。		
24	教育研究等の質の向上	退学率の改善	保護者との連携強化	◆3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の郵送および、必要時、保護者面談を実施。	◎	◆鍼灸学科 1,2,3年生については各学期終了後、学生アドバイザーが成績を確認し、成績不良者に対し面談・指導を実施した(必要に応じて保護者面談も実施)。 4年生については各総合実力試験の結果を受けて面談、学習指導を行った。一方、従来行っていた総合実力試験状況の保護者宛書面通知(成績のレベルにより内容が異なる)や保護者面談は、コロナ感染の影響もあり実施できなかった。 ◆柔道整復学科 成績不良者に対してアドバイザーより保護者に電話連絡するなど、可能な限り退学率の改善に努めた。 ◆看護学科 必要に応じて、保護者面談を実施し就学継続を確認し、保護者と連携して学生の支援を行った。就学継続が困難なケースについて、理由を明確にしたうえで、今後の入学者選抜試験において参考としていく。	◆3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の郵送および、必要時、保護者面談を実施。		
25	教育研究等の質の向上	退学率の改善	入学時点におけるミスマッチングの防止	◆看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	◎	◆看護学科 指定校推薦希望者に対する入学時ミスマッチングを低減するためのオープンキャンパス等での個別相談の拡充させた 今後の指定校からの入学者増加を図るため、指定校からの受験生の評価を分析、参考にしていく	◆看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。		
26	教育研究等の質の向上	退学率の改善	入学時点におけるミスマッチングの防止	◆看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	◎	◆看護学科 指定校推薦希望者に対する入学時ミスマッチングを低減するためのオープンキャンパス等での個別相談の拡充させた 今後の指定校からの入学者増加を図るため、指定校からの受験生の評価を分析、参考にしていく	◆看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。		

PDCAサイクル表（2020年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
27	教育研究等の質の向上	退学率の改善	学務システムの改善と有効活用	◆情報センター 学務システムの有効活用の推進。	情報センター：△	◆情報センター 2019年度に国家試験、資格試験の結果をシステムで管理できるようにしたが、2020年度はそれを活用した分析等は行えなかった。	◆情報センター 学務システムの活用状況を検証。		
28	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	治療体験・健康相談等実施（附属鍼灸センター）	◆鍼灸学科 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力推進。	鍼灸学科：×	◆鍼灸学科 従来実施していた、大学祭期間中の附属鍼灸センターでの鍼灸体験施術、有明祭り、豊洲フェスタ、NHKサイエンススタジアム、スポーツ医学フェスティバルでの鍼灸ブース出店、一枝のゆめ財団主催「一枝のゆめフェスタ2020 第3回あんまマッサージ指圧コンテスト」などのすべての企画が、コロナ感染症の影響により実施できなかった。	◆鍼灸学科 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力推進。		
29	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	研究を含めた来院患者等に関連した医療機関との連携推進（附属鍼灸センター）	◆鍼灸学科 引き続き、研究を含めた附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携推進。	鍼灸学科：◎	◆鍼灸学科 科研費による継続研究『非特異的腰痛患者に対する鍼の効果』、『「肩こり」を問いなおす—米国における「neck pain」との比較から—』の被験者を、附属鍼灸センターに来院する患者さんから募集した。またひもろぎクリニックとの連携で、精神疾患に関する研究を進めた。	◆鍼灸学科 引き続き、研究を含めた附属鍼灸センター来院患者等に関連した医療機関との連携推進。		
30	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	高校生・地域向けセミナー等の開催	◆鍼灸学科 引き続き、附属鍼灸センターや学科による地域向けセミナー等の開催。	鍼灸学科：△	◆鍼灸学科 コロナ感染症の影響により従来行ってきた、大学祭期間中の鍼灸センターでの鍼灸体験施術、有明祭り、豊洲フェスタなどのすべての企画が実施できなかった。 それに代わるものとして、コロナ感染下における健康増進を目的に、大学HPに「からだと心を癒す—ツボ押しセルフケア—」のサイトを立ち上げ鍼灸の成果や健康法について啓蒙・指導した。	◆鍼灸学科 引き続き、附属鍼灸センターや学科による地域向けセミナー等の開催。		
31	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	行政（江東区）及び有明スポーツセンターとの連携	◆鍼灸学科 ・引き続き、行政（江東区）との連携。 ・引き続き、有明スポーツセンターとの連携。	鍼灸学科：×	◆鍼灸学科 コロナ感染症の影響により従来実施してきた、大学祭期間中の附属鍼灸センターでの鍼灸体験施術、有明祭り、豊洲フェスタなどのすべての企画が実施できなかった。	◆鍼灸学科 ・引き続き、行政（江東区）との連携。 ・引き続き、有明スポーツセンターとの連携。		
32	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	本学の人的資源を活かした連携	◆柔道整復学科 引き続き、地域連携として近隣中学校の授業（柔道）の支援や地域の子供達を対象にした少年柔道教室を開講し、さらなる連携強化を継続。	柔道整復学科：◎	◆柔道整復学科 コロナ感染症の影響で、年度前半は休止を余儀なくされたが、令和2年10月より少年柔道教室を週2回開催し、地域の子供達を中心に約40名が稽古に励んだ。	◆柔道整復学科 引き続き、地域連携として近隣中学校の授業（柔道）の支援や地域の子供達を対象にした少年柔道教室を開講し、さらなる連携強化を継続。		
33	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	有明マンション連合自治会との連携	◆柔道整復学科 引き続き、マンション対抗運動会などの行事へ参加し、さらなる地域連携を強化。	柔道整復学科：◎	◆柔道整復学科 10～12月に地域の住民（20名）を対象にTAU健康体操教室（全10回）を開催した。	◆柔道整復学科 引き続き、マンション対抗運動会などの行事へ参加し、さらなる地域連携を強化。		
34	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	附属クリニック/接骨センターの活用	◆柔道整復学科 引き続き、附属クリニック・接骨センターの充実を図り、地域住民の健康の保持・増進はもとより、地域住民が安心して暮らせる環境の提供を継続。	柔道整復学科：◎	◆柔道整復学科 近年、接骨センターの患者数も増加してきており、地域住民の健康の保持・増進に貢献できていると考える。 また、附属クリニックとの連携が密であり、患者の後療依頼などが円滑に行うことができた。	◆柔道整復学科 引き続き、附属クリニック・接骨センターの充実を図り、地域住民の健康の保持・増進はもとより、地域住民が安心して暮らせる環境の提供を継続。		
35	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	図書館の開放	◆図書館 引き続き、図書館を無料開放するなどの環境整備を進め、地域との交流を促進。	図書館：—	◆図書館 コロナ感染症の影響のため、一般利用者（学外者）への開放を中止した。	◆図書館 引き続き、図書館を無料開放するなどの環境整備を進め、地域との交流を促進。		

PDCAサイクル表（2020年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
36	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	江東区内各所におけるボランティア実習	◆看護学科 ボランティア実習導入（および導入効果の評価（老年看護学）） （追加）新型コロナウイルス感染症発生のため、実施について検討中	看護学科：△	看護学科 コロナ感染症の拡大を受けて、実施しなかった。	◆看護学科 ボランティア実習導入（および導入効果の評価（老年看護学））		
37	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	公衆衛生看護学実習先企業の健康管理業務への提言	◆看護学科 引き続き、公衆衛生看護学実習先企業との協定実施。	看護学科：◎	◆看護学科 公衆衛生看護学実習が、実習先企業との協定内容のとおり行われているか途中評価を実施した。	◆看護学科 引き続き、公衆衛生看護学実習先企業との協定実施。		
38	教育研究等の質の向上	地域連携の構築	シミュレーション・ラボにおける訪問看護師の卒後教育の実施	◆看護学科 学生教育用シミュレーション・ラボへの協定先の訪問看護師の実技演習受け入れ及び評価。 （追加）運用開始予定	看護学科：△	◆看護学科 整備は完了したが、今年度はコロナ感染症の状況を踏まえて中止した。 今後運用について検討の必要がある。	◆看護学科 学生教育用シミュレーション・ラボへの協定先の訪問看護師の実技演習受け入れ及び評価。		
39	教育研究等の質の向上	他大学との連携	共同研究の推進（他大学/他学科）	◆3学科 引き続き、学内外の共同研究を推進するための環境整備を実施。	鍼灸学科：◎ 柔道整復学科：◎ 看護学科：○	◆鍼灸学科 ハーバード大学メディカルスクール（…テッド・キャプチャック教授、ジャン・コング准教授）、イリノイ大学看護学部（…ジュディス・シュレガー准教授、パティル・クリスタル教授）、フロリダ大学看護学部（…ダイアナ・ウィルキー教授）、東京大学（…久保啓太郎准教授、中澤公孝教授）との共同研究の継続。 ◆柔道整復学科 日本体育大学の教員と連携し、積極的に共同研究を実施することができた。 ◆看護学科 個々の教員がそれぞれの研究テーマに応じ、それぞれ他大学と連携し、共同研究等を実施した。	◆3学科 引き続き、学内外の共同研究を推進するための環境整備を実施。		
40	教育研究等の質の向上	他大学との連携	国際交流推進	◆学務部 引き続き、国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制）を継続。 ・大学間交流協定に基づく交流の活性化（派遣と受入）⇒具体的案件対応を踏まえて、支援体制を毎年段階的に整備強化していく。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学派遣支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。	学務部：－	◆学務部 コロナ感染症のため大学間交流協定に基づく交流（モンゴル研修、シンガポール研修）は中止となった。	◆学務部 左記国際交流推進体制の継続・検証・改善を実施。 PDCAサイクルの推進。	◆学務部 左記国際交流推進体制の継続・検証・改善を実施。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学派遣支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。 PDCAサイクルの推進。	
41	教育研究等の質の向上	他大学との連携	MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学への教員派遣と学生研修	◆鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	鍼灸学科：×	◆学務部 1) 2021年度ポストン研修に向けて準備を進める予定であったが、コロナ感染症の影響により、準備ができなかった。 2) コロナ感染症の影響により、学外実習のうち、東京大学附属病院（リハビリテーション科）、埼玉医科大学病院（東洋医学科）での鍼灸治療やチーム医療の実際について研修が実施できなかった。	◆鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。		
42	教育研究等の質の向上	他大学との連携	シンガポール国立大学看護学部	◆看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。 （追加）世界的な新型コロナウイルス感染症の感染状況を見て計画変更または実施。 JASSO協定派遣は2020年度実施予定。	看護学科：△	◆看護学科 2020年度学生受け入れ、派遣はコロナウイルス感染症のため中止。	◆看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◆看護学科 世界的な新型コロナウイルス感染症の感染状況を見て計画変更または実施。JASSO協定派遣は2020年度実施予定。	
43	教育研究等の質の向上	他大学との連携	オーストラリアCharles Sturt大学	◆看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	看護学科：◎	◆看護学科 2021年度の学生派遣、受け入れに向けた準備継続	◆看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。		

PDCAサイクル表（2020年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
44	教育研究等の質の向上	他大学との連携	モンゴル国立医療科学大学	◆柔道整復学科 引き続き、これまで柔道整復学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ・留学生受入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	◆柔道整復学科 短期研修の受入れはできなかったが、モンゴル国立医療科学大学の教員と積極的にオンライン会議を行うことで国際交流（大学間連携）が強化された。	◆柔道整復学科 引き続き、これまで柔道整復学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ・留学生受入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。		
45	教育研究等の質の向上	他大学との連携	龍仁大学校（韓国）	◆柔道整復学科 引き続き、武道（柔道・龍武道）を通じた大学間連携の継続推進。	△	◆柔道整復学科 新型コロナウイルスの影響で次回の世界大会（2021年）に向けた稽古を行うことができなかった。	◆柔道整復学科 引き続き、武道（柔道・龍武道）を通じた大学間連携の継続推進。		
46	教育研究等の質の向上	教育成果の見える化	国家試験結果の公表	◆事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。	◎	◆事務局 過去3年分（2017～2019）の国家試験結果をHPに公表している。 国家試験結果とともに、他の資格試験結果（公認アスレティックトレーナー、健康運動実践指導者）を掲載しており、その発表が例年6月に行われるため、公表が遅れる傾向にある。	◆事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。	◆事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。 国家試験結果のみを速報として掲載し、その後他の資格試験結果を加えたものに差し替える方法を検討する。	
47	教育研究等の質の向上	教育成果の見える化	学生の研究成果公表	◆鍼灸学科 引き続き、学生の研究成果の学会発表、HP等での公開。	◎	◆鍼灸学科 卒業研究を卒業論文集にして図書館にて公開する予定であったが、コロナ感染の影響で卒論の提出時期が大幅に遅れた（卒業論文集の完成は令和3年度に入る予定）。 学部生の全日本鍼灸学会での研究発表はコロナ感染の影響もあり実施できなかった。 ◆看護学研究科 大学紀要への投稿を行った。	◆鍼灸学科 引き続き、学生の研究成果の学会発表、HP等での公開。		
48	教育研究等の質の向上	臨床の質の向上	附属クリニック・附属鍼灸センター・附属接骨院の連携強化	◆附属診療施設 引き続き、附属鍼灸センター・附属クリニック・附属接骨院の連携の強化。	◎	◆附属クリニック 指示書を活用し、鍼灸センターや接骨センターへの患者を紹介し、連携を図った。 ◆附属鍼灸センター 附属クリニックより患者の紹介を受け、鍼灸治療を行った一方で、鍼灸センター来院患者についても、必要に応じて附属クリニックに診療を依頼した。 科研費を獲得した「非特異的腰痛患者に対する鍼の効果」に関する研究の被験者となった患者の基礎データである脊椎X線撮影を附属クリニックにて行った。 ◆附属接骨センター 附属クリニックの医師との連携が強化されたことが患者数増加に寄与している一因と思われ、学生に対して充実した臨床実習が展開できている。また実習を担当する教員の質の向上にもつながっている。	◆附属診療施設 引き続き、附属鍼灸センター・附属クリニック・附属接骨院の連携の強化。		
49	教育研究等の質の向上	臨床の質の向上	附属医療施設における臨床研究（EBM）強化	◆鍼灸学科 引き続き、附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。	◎	◆鍼灸学科 科研費基盤研究C『非特異的腰痛患者に対する鍼の効果』に関する研究の被験者を、また科研費基盤研究C『「肩こり」を問いなおす一米国における「neck pain」との比較から一』の被験者を、鍼灸センターに来院する患者から募集し調査研究を行った。 大学院生の「非特異的腰痛患者の鍼治療効果に影響を及ぼす因子の探索-Roland - Morris Disability Questionnaireに着目して-」に関する臨床研究を鍼灸センター来院患者より募集して行った。 鍼灸センターの患者を対象としたケーススタディや症例集積研究を全日本鍼灸学会等関連学会で報告した。	◆鍼灸学科 引き続き、附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。		

PDCAサイクル表（2020年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
50	教育研究等の質の向上	臨床の質の向上	附属医療施設における臨床研究（EBM）強化	◆鍼灸学科 引き続き、卒前・卒後における臨床教育講座の実施。	◎ 鍼灸学科：◎	◆鍼灸学科 緊急事態宣言の発出に伴い外来活動は4月8日から休止を余儀なくされたが、宣言解除前の5月7日より感染防止対策を講じて再開し、教育活動も順次再開した。 卒前教育として学部4年生の附属鍼灸センター実習Ⅰ・Ⅱ、症例報告の書き方、症例報告ならびに日本鍼灸理療専門学校4年生の校外臨床実習の授業を行った。 卒後教育として本学および他の専門学校の卒業生23名を研修生として受け入れた。大学院生の臨床実習の授業を行った。	◆鍼灸学科 引き続き、卒前・卒後における臨床教育講座の実施。		
51	教育研究等の質の向上	教育の質の向上	外部講師によるFD実施	総務部鍼灸学科 引き続き、臨床及び研究能力向上を目的に外部講師を招聘し、教員に対するFDを実施。	× 鍼灸学科：×	◆鍼灸学科 コロナ感染の影響で実施に至らなかった。	◆鍼灸学科 引き続き、臨床及び研究能力向上を目的に外部講師を招聘し、教員に対するFDを実施。		
52	教育研究等の質の向上	教育の質の向上	海外教育プログラム	◆3学科 引き続き、各連携大学での研修プログラム等の実施。	× 鍼灸学科：× ◎ 柔道整復学科：◎ △ 看護学科：△	◆鍼灸学科 2021年度ポストン研修に向けて準備を進める予定であったが、コロナ感染症の影響により、準備ができなかった。 ◆柔道整復学科 オンライン会議を行い、次年度に予定されている海外研修プログラムの準備を行うことができた。 ◆看護学科 シンガポール大学との間の相互研修派遣については、2020年度はコロナウイルス感染症のため中止。	◆3学科 引き続き、各連携大学での研修プログラム等の実施。		
53	教育研究等の質の向上	教育の質の向上	カリキュラムの検討及び改善	◆3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。	◎ 鍼灸学科：◎ ◎ 柔道整復学科：◎ ◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 はり師、きゅう師の国家試験出題基準の改定や問題数の増加などにより、難易度が高くなってきていることから、成績下位者への対応として、卒業研究のテーマを国家試験に直結するような内容としたほか、卒業論文提出フォーマットをこれまでのA4・2枚の要旨フォーマットの他に、A4・1枚の要旨フォーマットを加えた。これにより卒業担当教員の負担を軽減し、国家試験に向けての学習指導にその時間を割くことができたが、成績良好者の研究指導に時間をかけるところまでは至っていないと思われる。その効果については、定員を満たしていないクラスでの研究指導であったことや、コロナ感染症の影響を受けたことなどから、的確な評価をすることができず、引き続きの検討を要する。 また、定例学科会議において、3ポリシーの見直しについての検討を行った。 ◆柔道整復学科 新旧カリキュラムに対して、全て学科内の教員で担当し、新科目も問題なく導入できた。 ◆看護学科 2022年度のカリキュラム改定のための準備を行った。 なお、2019年度に改定したカリキュラム内容の評価を行うことを進めていく。	◆3学科 引き続き、社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。		

PDCAサイクル表（2020年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
54	教育研究等の質の向上	研究の質の向上	研究体制の充実	◆3学科 引き続き、 ・実験機器の充実。 ・多様な領域での基礎、臨床研究及び学際研究の可能な体制強化と研究。	鍼灸学科：○ 柔道整復学科：◎ 看護学科：○	◆鍼灸学科 学科としての財政状況が厳しいこともあり、学科共同研究費による機材の購入は控えたが、学科教員の研究内容は多岐にわたり、また、国内外における共同研究を実施しているところもあり、各教員が個人研究費や科研費補助金の範囲内で研究を進めた。今年度の外部資金獲得については、ひらめきときめきサイエンス1件が採択されたが、科研費申請3件全てが不採択となった。（学内特別研究費は申請2件中1件が採択） ◆柔道整復学科 教員、大学院生、学部生ともに、学内で所有している実験器具を使用し研究をすすめ、関連学会、特に日本柔道整復接骨医学会学術大会において積極的に成果報告を行った。 ◆看護学科 学科共同研究費による萌芽的研究の助成を行った。	◆3学科 引き続き、 ・実験機器の充実。 ・多様な領域での基礎、臨床研究及び学際研究の可能な体制強化と研究。		
55	教育研究等の質の向上	研究の質の向上	・附属鍼灸センターにおける臨床研究（EBM）強化 ・研究成果の公表	◆鍼灸学科 ・附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。（再掲） ・HP等での教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。	鍼灸学科：○	◆鍼灸学科 科研費基盤研究C『非特異的腰痛患者に対する鍼の効果』に関する研究、科研費基盤研究C『「肩こり」を問いなおす一米国における「neck pain」との比較から一』の被験者を、鍼灸センターに来院する患者から募集し、臨床研究・調査研究を行ったほか、鍼灸センターの患者を対象としたケーススタディ、症例集積研究を行った。 また、成果について学会発表、論文掲載、博士論文の公開などを行った。	◆鍼灸学科 ・附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。（再掲） ・HP等での教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。		
56	教育研究等の質の向上	研究及び学会活動	研究環境の共有・所属学会の相互活用	◆3学科 引き続き、各専門分野における研究の実施を推進し、引き続き、倫理教育の徹底による不正防止体制を堅持。	鍼灸学科：○ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎	◆鍼灸学科 3年生後期から始まる卒業研究において研究倫理に関する講義を行い、講義終了後、理解度試験を行い、その成績を含めた報告書を提出した。 3件の科研費新規申請はすべて不採択、ひらめきときめきサイエンス1件および学内特別研究費1件が採択された。 ◆柔道整復学科 卒業研究を開始する柔道整復学科3年生の41名に対し、研究に関する倫理教育を行い（11月）、そのフォローアップとして、各学生に対して指導教員が研究倫理教育を行っている。 関連学会、特に日本柔道整復接骨医学会学術大会において積極的に成果報告を行った。 ◆看護学科 3年生を対象に、担当教員が看護研究に係る研究倫理について講義を行った（9月）。また、4年生・大学院生については、研究倫理を順守して看護研究を行うよう各担当教員が指導した。	◆3学科 引き続き、各専門分野における研究の実施を推進し、引き続き、倫理教育の徹底による不正防止体制を堅持。		
57	教育研究等の質の向上	大学院生の将来設計	博士前期課程	◆保健医療学研究科 引き続き、各分野で活躍できる人材育成のための教育内容を充実するために、修了生の就職実績を再検討及び現状把握を実施。 （追加）特に就業を希望する院生に対しては、新型コロナウイルスの影響により厳しくなることが予想されるため、研究科長、指導教員、事務局が連携をして対処していく。	保健医療学研究科：◎ 看護学研究科：◎	◆保健医療学研究科 大学院の修了生に対しては、主に指導教員が希望進路および就職・進学先を把握し、研究活動とともに指導を行っている。 （2020年度修了生進路実績：修了生6名…博士後期課程3名、その他進学1名、就業1名、臨床施設研修生1名、なお就業および臨床施設研修生の2名は研究生として引き続き研究活動の継続する） ◆看護学研究科 将来設計の相談を受け、助言した。	◆保健医療学研究科 引き続き、各分野で活躍できる人材育成のための教育内容を充実するために、修了生の就職実績を再検討及び現状把握を実施。	◆保健医療学研究科 引き続き、各分野で活躍できる人材育成のための教育内容を充実するために、修了生の就職実績を再検討及び現状把握を実施するとともに、教育内容の見直しを含めて検討する。	
58	教育研究等の質の向上	大学院生の将来設計	博士後期課程	◆保健医療学研究科 引き続き、将来、専門分野での教育職および研究職で活躍できる人材育成を図るための教育体制強化。	保健医療学研究科：◎	◆保健医療学研究科 課程修了とともに、博士（柔道整復学）の学位を取得し、専門分野の研究職として活躍できる人材育成ができた。 課程修了後、教育研究職としての進路が極めて少なく、今後受け皿の確保（ポスドク等）が必要である。	◆保健医療学研究科 引き続き、将来、専門分野での教育職および研究職で活躍できる人材育成を図るための教育体制強化。	◆保健医療学研究科 引き続き、将来、専門分野での教育職および研究職で活躍できる人材育成を図るための教育体制の強化を図るとともに、受け皿としての組織体制の整備を検討していく。	

PDCAサイクル表（2020年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
59	財政基盤の安定	入学者数の確保	定員、学費、資格（あん摩マッサージ指圧師）、広報関連	◆鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	鍼灸学科：×	◆鍼灸学科 本年度は定員を満たしたことで、またコロナ感染症の影響のため、専門職大学院との差別化等についての検討は行わなかった。 令和2年度1月の定例学科会議で、入学希望者増加につながる新たな学科のブランド作りについて検討した。			
60	財政基盤の安定	入学者数の確保	定員、学費、資格（あん摩マッサージ指圧師）、広報関連	◆鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	鍼灸学科：×	◆鍼灸学科 本年度は定員を満たした、またコロナ感染症の影響もあり新たな試みは行わなかった。 令和2年度1月の定例学科会議で入学希望者増加につながる新たな学科のブランド作りについて検討した。当面は現在の形を維持していくこととし、引き続き広報活動に注力するとともに、学科のセールスポイントとして「研究」に注力していく。			
61	財政基盤の安定	入学者数の確保	高校訪問の実施	◆全学 引き続き、本学の認知度を高めるため、つながりの深い教員が所属する高校や入学実績のある高校への訪問など積極的な募集活動の展開。 （看護学科追加） 新型コロナウイルスの感染状況によって変更可能性あり	鍼灸学科：○ 柔道整復学科：◎ 看護学科：◎ アドミッションセンター：ー	◆鍼灸学科 高校生を対象とした出前授業・模擬授業や地域イベントなどはコロナ感染症の影響により実施できなかったが、ひらめきときめきサイエンスはコロナ感染予防に細心の注意を払い実施した。鍼灸学科教員のNHKなどのメディア出演は多数あり、本学科の知名度アップにつながったと思われる。 ◆柔道整復学科 柔道整復学科の教員と高校の教員（柔道部の監督・顧問）との深いかかわりから、数多くの入学生を紹介頂いている。新型コロナウイルスの影響で高校訪問はできなかったが、電話などで積極的にアプローチすることができた。 ◆看護学科 指定校推薦入試制度を強化するにあたり、その準備として、学科長・広報担当による実績校に対する高校訪問を行った（6月・7月）。 ◆アドミッションセンター コロナ禍のため高校訪問の実施を控えた。	◆全学 引き続き、本学の認知度を高めるため、つながりの深い教員が所属する高校や入学実績のある高校への訪問など積極的な募集活動の展開。		
62	財政基盤の安定	入学者数の確保	スポーツ推薦入試の拡充	◆柔道整復学科、アドミッション 引き続き、スポーツに携わってきた在学生学生が多いため、スポーツ推薦入試のさらなる推進。	柔道整復学科：◎ アドミッションセンター：○	◆柔道整復学科 オープンキャンパスの参加者や大学を訪問した高校生からスポーツ推薦入試の問合せが多いため、継続していく実施していく。 ◆アドミッションセンター 2020年度のスポーツ推薦受験者は1名であった。 スポーツに携わってきた受験生は多く、引き続きこの方向で良いと考える。	◆柔道整復学科、アドミッション 引き続き、スポーツに携わってきた在学生学生が多いため、スポーツ推薦入試のさらなる推進。		
63	財政基盤の安定	入学者数の確保	指定校推薦枠拡大による優秀な学生の確保促進（入学時におけるミスマッチングの再掲）	◆看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	看護学科：◎	◆看護学科 指定校推薦入試からの入学者枠を増やした結果、指定校推薦合格者数が増加した。	◆看護学科 引き続き、指定校推薦制度の強化。	◆看護学科 コロナウイルス感染対策により変更の可能性あり	
64	財政基盤の安定	入学者数の確保	指定校推薦枠拡大による優秀な学生の確保促進（入学時におけるミスマッチングの再掲）	◆看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。	看護学科：○	◆看護学科 指定校からの入学者の評価は、概ね良好だった。	◆看護学科 引き続き、指定校からの入学者の評価。		

PDCAサイクル表（2020年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
65	財政基盤の安定	入学者数の確保	オープンキャンパス	◆3学科 引き続き、参加者の入学率は高いことから、オープンキャンパスの参加者数の増加を図り、柔道整復について理解を深めるための企画・運営を実施。	鍼灸学科：○ 柔道整復学科：◎ 看護学科：○	◆鍼灸学科 月1回および各オープンキャンパスの前週に広報ワーキンググループのミーティングを開き、広報のあり方、またオープンキャンパスについての準備・検討を行った。 しかしながら、コロナ感染症の影響で、対面でのオープンキャンパスが実施できず、すべてを遠隔で対応となり、学生募集に苦戦を強いられた。今後は、SNSなどを駆使した柔軟な対応が必要になると思われる。 ◆柔道整復学科 計6回開催したオープンキャンパスへの、柔道整復学科を希望した参加人数は160名であった。 ◆看護学科 計5回開催したオープンキャンパスの看護学科を希望した参加者は、6月105人、7月84人、8月214人（2回合計）、9月51人、合計454人となった。前年度と比較すると、163人減少した。	◆3学科 引き続き、参加者の入学率は高いことから、オープンキャンパスの参加者数の増加を図り、柔道整復について理解を深めるための企画・運営を実施。		
66	財政基盤の安定	入学者数の確保	ホームページの充実	◆アドミッションセンター 引き続き、本学の認知度を高めるために、アドミッションセンター運営委員会を中心としたホームページコンテンツ（国家試験合格率の推移等）のさらなる整備。	アドミッションセンター：○	◆アドミッションセンター 運営会議での検討を重ね、最新のオンラインオープンキャンパス情報として、動画コンテンツやSNSを充実させ、受験生の参加増加に努めた。	◆アドミッションセンター 引き続き、本学の認知度を高めるために、アドミッションセンター運営委員会を中心としたホームページコンテンツ（国家試験合格率の推移等）のさらなる整備。	◆アドミッションセンター 引き続き、本学の認知度を高めるために、アドミッションセンター運営委員会を中心としたホームページコンテンツのさらなる整備、充実。	
67	財政基盤の安定	入学者数の確保	宣伝広告	◆アドミッションセンター 引き続き、検討結果の実行。	アドミッションセンター：○	◆アドミッションセンター 運営会議において効果的な広報媒体の検討を行い、受験サイトへの掲載を大手2社に絞り広報を行った。 また、サイト内での検索対策等を行い、「東京都内の医療系」で検索した場合、検索ランクが上位になるように設定した。 オープンキャンパスの告知メールも時期を選んで業者の持つ医療技術職に興味ある受験生に発送した。 新型コロナの影響により急遽オンラインオープンキャンパスを開催したが、進学サイトを通じた申し込みが多く、従来の対面型オープンキャンパスと同等の参加実績があった。	◆アドミッションセンター 引き続き、検討結果の実行。		
68	財政基盤の安定	入学者数の確保	卒業生へのアプローチ	◆柔道整復学科 引き続き、各地で活躍する卒業生にコンタクトを取り、本学の知名度を高める活動の依頼。 ・引き続き、さらなる社会人経験のある学生の受入れ（例社会人入試、編入学入試）体制の整備。	柔道整復学科：◎ 看護学研究科：◎	◆柔道整復学科 本学の卒業生の勤務する接骨院に来院した患者が本学に入学あるいはオープンキャンパスに参加するなど、卒業生による紹介が増加している。 ◆看護学部、看護学研究科 卒業生に対して大学院の募集要項を郵送した。	◆柔道整復学科 引き続き、各地で活躍する卒業生にコンタクトを取り、本学の知名度を高める活動の依頼。 ・引き続き、さらなる社会人経験のある学生の受入れ（例社会人入試、編入学入試）体制の整備。		
69	財政基盤の安定	外部資金の獲得	科研費の積極的確保	◆公的研究支援室 申請状況の検証（追加）新たな若い研究者も増えている中、一同介しての研修等を実施する事を見直す必要がある。現在の社会情勢も踏まえ、若い研究者を中心に勉強会を複数回実施する等の方法により情報提供を図っていく。	公的研究支援室：○	◆公的研究支援室 コロナ禍ではあったが、科研費獲得のWEBセミナーの実施した。科研費応募者は、前年度と同程度の人数であった。 なお、例年実施する前年度科研費採択者による発表会の実施は見送った。	◆公的研究支援室 一部修正	◆公的研究支援室 引き続き、科研費獲得セミナーを開催し、積極的に応募してもらおう研究者を増やしていく。 また、申請書の添削指導も含めて外部講師に依頼し、特に応募意欲のある研究者を中心にサポートしていく体制を検討する。	

P D C A サイクル表 (2 0 2 0 年度自己評価・中長期計画一覧表)

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
70	財政基盤の安定	外部資金の獲得	科研費等研究助成事業	◆3学科 引き続き、科研費等研究助成事業へのさらなる積極的な応募。	◎	◆鍼灸学科 鍼灸学科からは3件の新規申請を行ったがすべて不採択であった。ひらめきときめきサイエンス1件が採択された。継続科研費は基盤研究Cが2件である。 ◆柔道整復学科 各専門分野の教員が共同研究という形で、競争的資金の獲得のために積極的に応募している。 ◆看護学科 科研費等研究助成は一定数あったものの、その他の研究助成へのトライアルは少なかった。	◆3学科 引き続き、科研費等研究助成事業へのさらなる積極的な応募。		
71	財政基盤の安定	外部資金の獲得	経常費補助金の増加	◆財務部、学務部 学内ワークスタディ事業について実施できないかの検討実施。(追加) 中途退学者の減少による定員充足率の上昇に伴う補助金の増減率を向上させる。	◎	◆財務部、学務部 経常費補助金については例年通りの申請を行うとともに、コロナ禍での補助金、修学支援補助金、遠隔授業に伴う設備整備補助金についても適切に対応した。 今後、「定員未充足の学部等に対する増減率の強化」が予想されることから、中途退学者の防止は必須の課題である。	◆財務部、学務部 学内ワークスタディ事業の実施。	◆財務部、学務部 学内ワークスタディ事業の実施。 引き続き、定員充足率を維持するためにどうしたら中途退学者を減少できるか検討する。	
72	財政基盤の安定	外部資金の獲得	外部資金のデータベース整理および競争的資金の獲得に向けた応募の推奨	◆3学科 引き続き、外部資金のデータベース整理。および、外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。	◎	◆鍼灸学科 3件の新規申請を行ったがすべて不採択であった。ひらめきときめきサイエンス1件が採択された。継続科研費は基盤研究Cが2件である。 ◆柔道整復学科 外部資金(競争的資金)の獲得のために、科研費獲得WEBセミナーを利用した視聴勉強会に積極的に参加した。 また若手研究者の作成した科研費申請書類に対して、学科内の教授により指導が行われた。 ◆看護学科 外部資金(競争的資金)の獲得のために、科研費獲得WEBセミナーを利用した視聴勉強会に積	◆3学科 引き続き、外部資金のデータベース整理。および、外部資金獲得のため、若手教員に対して申請書類作成指導を実施。		
73	財政基盤の安定	外部資金の獲得	学内特別研究費	◆3学科 引き続き ・申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運用。	◎	◆鍼灸学科 本年度はコロナ感染の影響もあり特に相互協力は行われなかった。学内特別研究費申請2件のうち1件が採択された。 ◆柔道整復学科 特別研究費の募集に対して、積極的に応募し5名(新規4名・継続1名)が採択された。 ◆看護学科 特別研究費への応募を行い、4件が採択された。	◆3学科 引き続き ・申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運用。		
74	財政基盤の安定	外部資金の獲得	教員研究の推進のための学科共同研究費による萌芽的研究助成	◆看護学科 引き続き、学科共同研究費による萌芽的研究助成。	○	◆看護学科 学科共同研究費により、教員研究を推進した。	◆看護学科 引き続き、学科共同研究費による萌芽的研究助成。		
75	財政基盤の安定	人件費の抑制	教員	◆3学科 引き続き、授業数/週に基づく教員の再構成。 (柔道整復学科追加)実技科目に関しては、補助教員によるサポートを行う。	△	◆鍼灸学科 本年度は再構成に至らなかった。 ◆柔道整復学科 専任教員が補助教員に入ることによって、よりきめ細かい実技教育がなされたとともに、人件費の抑制につながったと考えられる ◆看護学科 非常勤講師の勤務時間の管理や教員の授業時数の管理を行った。	◆3学科 引き続き、授業数/週に基づく教員の再構成。		

P D C A サイクル表 (2 0 2 0 年度自己評価・中長期計画一覧表)

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
76	財政基盤の安定	人件費の抑制	人件費の抑制	◆法人本部 引き続き、令和2年までの3年間、学生確保の動向を見極める。	法人本部：○	◆法人本部 学生確保の動向を確認、予算経費執行については、抑制的な経費支出に努めた。 令和2年度においては、コロナ感染症の影響で非常勤講師講義料の支出が減少した。 部門間において、学生の確保状況、教職員の配置状況、教育研究費執行状況により、部門収支に差が出ている。収入に影響する学生確保の動向、支出における人件費、教育研究費の構成バランスの改善を課題とする。	◆法人本部 過去3年間の学生確保の状況に基づき、人件費の抑制策について検討を開始する。	◆法人本部 過去3年間の学生確保の状況に基づき、人件費の抑制策について検討を開始する。 ・人件費比率の上昇を抑制するため、人事関係規程の見直し、教職員の役職、年齢構成等の現状を踏まえた人員計画。 ・人件費抑制を教育研究経費の確保増加に振り向け、支出構成バランスの改善。	
77	財政基盤の安定	物件費の削減	購入単価の見直し	◆保健医療学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・検証。 (財務部追加)各部門とのヒアリングを実施し、購入物品の見直しを図るとともに、取引業者との価格交渉を実施する。	鍼灸学科：◎ 財務部：－	◆鍼灸学科 授業で使用する物品について可能なかぎり節約するよう努めた。 ◆財務部 コロナ禍において、教育研究活動は大幅な制限と受け、結果として物件費は大幅減少となった。 一方で、遠隔授業等への対応のため、新たな種類の経費負担も発生している。	◆保健医療学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・業者の選定、価格交渉。	◆保健医療学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター 担当者から提出された物件購入申請に基づき、購入目的や予算との費目数量や金額の妥当性等をチェックするとともに、必要に応じてヒアリングを行い、購入単価や数量について、以後の改善を指導していく。	
78	財政基盤の安定	物件費の削減	一般管理費の契約見直し及び経費削減の実施。 中期計画期間の最終年度までの目標⇒一般管理経費5%削減	◆財務部 前年度に引き続き、一般管理費の削減推進。	財務部：－	◆財務部 コロナ禍という特殊事情があり、経費支出は大幅な減少となった(対当初予算△20%)。内容的には遠隔授業実施に伴う光熱水費の減少や研究活動の自粛により、結果的に経費支出が削減されたもの。	◆財務部 前年度に引き続き、一般管理費の削減推進。	◆財務部 前年度に引き続き、一般管理費の削減推進。(電気料金など公共料金の割引率の見直し検討)	
79	財政基盤の安定	余裕金の活用	現預金の確保と活用	◆法人本部 引き続き、現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。	法人本部：○	◆法人本部 運用規程を遵守し、運用資産残高管理を定期的に実施した。 定期預金等のローリスク資産を一定額確保した上で、金融情勢に注視しながら、安全性に留意して運用商品の特性に応じたポートフォリオの維持管理を実施し、資金運用益の確保をした。	◆法人本部 引き続き、現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。	◆法人本部 取引金融機関からも金融市場情報等を収集し、資産運用規程を遵守した資産運用方針の継続を前提とし、引き続き定期的な資産運用ポートフォリオの点検、見直しの検討を行う。	
80	業務運営の改善	ガバナンスの強化	大学の適切な運営実施のためにIR委員会を活用し、学内外の様々なデータの収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	◆IR委員会 引き続き、IR委員会を活用し、IR委員会が関係部署と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	IR委員会：○	◆IR委員会 学修行動調査を、質問項目を見直したうえで令和3年3月に実施した(回答締切令和3年4月3日)。 「学修行動」「学修成果」「満足度」および「コロナ禍におけるオンライン学修」の категорияに分け、前回調査と比べて質問項目を絞り込んだ。	◆IR委員会 引き続き、IR委員会を活用し、IR委員会が関係部署と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	◆IR委員会 令和2年度の学修行動調査の分析を行うとともに、今年度も同様の調査を行う。 その他、学長の指示のもと、必要な調査を行い、意思決定を支援していく。	
81	業務運営の改善	内部統制の強化	教職員等を対象に研究不正防止を目的とした倫理観や責任感を培うため、研究活動を通して全方位的な不正防止策への取組について周知徹底を継続実施する。	◆財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、全学的な不正防止策を目指す。(当年度は、前年度までの問題点を整理し、重点課題とする。) (追加)研究費の使用については、各研究者が研究責任者であるという自覚のもと、客観的チェックを継続していく。また多くの研究者は前回のe-ラーニング実施から5年を経過しており、受講して再自覚して頂く。	財務部：○	◆財務部 コロナ禍ということもあり、WEB視聴セミナーを実施。外部講師に本学仕様のDVDを作成頂き、全研究者が視聴可能な体制を整備した。今後は確認テスト等の事後フォローアップを継続していく。	◆財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、全学的な不正防止策を目指す。(前年度までの問題点を整理し、重点課題とする。) 外部講師や科研費間接経費を利用しながら、研究者の不正が起りうる状況を把握し、重点課題として取り組んでいく。		

PDCAサイクル表（2020年度自己評価・中長期計画一覧表）

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
82	業務運営の改善	内部統制の強化	監事監査、内部監査及び会計監査人による監査により、双方向的な情報交換を進め、学校法人のガバナンスの充実を進める。内部統制の整備及び運用状況を検討・評価し、必要に応じてその改善を促す。	◆事務局 引き続き、監事との意思疎通を定期的実施し、必要な情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見については、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	内部監査室：○	◆内部監査室 令和2年7月に内部監査室に専任職員が配置され、定期監査（会計監査3回、公的研究費監査1回）を実施した。 また、監事と定期的に意思疎通を図り、必要な情報を相互に交換した。 学校法人のガバナンスの充実を進める上で、相互補完的に位置付けられる監事・会計監査・内部監査室による三様監査により、内部統制が適切に整備運用されているか検討、評価するという目的達成に貢献した。	◆内部監査室 引き続き、監事との意思疎通を定期的実施し、必要な情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見については、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	◆内部監査室 内部監査の結果は理事長に報告すると同時に、内部統制の整備及び運用状況を検討、評価し必要に応じてその改善を促す。 また、監事及び会計監査人との意思疎通を定期的実施し、内部監査室は必要な情報を速やかに提供するなど監事監査及び会計監査人監査の目的達成に貢献する。	
83	業務運営の改善	戦略的な広報体制の確立	国家試験結果、学生の進路先、大学イベントの公表	◆アドミッションセンター 引き続き、国家試験結果・学生の進路・大学イベント等の公表。	アドミッションセンター：◎	◆アドミッションセンター 情報公開ページの見直しを行い、情報を更新・掲載した。	◆アドミッションセンター 引き続き、国家試験結果・学生の進路・大学イベント等の公表。	◆アドミッションセンター 引き続き、他大学の状況等を勘案し、情報の偏りがないかのチェックし、国家試験結果・学生の進路・大学イベント等の情報を公表していく。	
84	業務運営の改善	戦略的な広報体制の確立	教員の活動に関する公表	◆アドミッションセンター 引き続き、教員の活動に関する公表。	アドミッションセンター：×	◆アドミッションセンター 教員の成果の把握が十分なされておらず、教員の活動に関しての情報公開ができていない。	◆アドミッションセンター 引き続き、教員の活動に関する公表。	◆アドミッションセンター 引き続き、IR委員会と連携して、教員の研究活動に関する調査を行い、公表に結びつける。	
85	業務運営の改善	情報公開	ソーシャルメディア	◆3学科 学科情報等の発信の開始。	各学科：△	◆各学科 1.教育研究上の基礎的な情報、2.修学上の情報等、3.財務情報、を分かりやすく加工してホームページで公表しているが、学科情報の発信は未着手。			
86	業務運営の改善	Webサイト	更新作業の効率化	◆情報センター CMS導入に着手。	情報センター：×	◆情報センター 2019年度中に納品されたCMSを稼働させることはできたが、職員がCMSを使用してWebサイトを更新できるようにすることはできなかった。	◆情報センター CMS導入完了。		
87	業務運営の改善	教職員の業務省力化	ICT導入による業務省力化	◆情報センター 検討した結果に基づき、取り組みに着手。	情報センター：◎	◆情報センター インフォテック「Create!Web」、住友電気「楽々Workflow」、日立システム「XPoint」のカタログを取り寄せ、セミナーの聴講を行い費用と仕様を検討した。 教職員向けに講座開催をするよう交渉した。	◆情報センター 業務省力化のためのシステム整備の推進を図る。	○情報センター 業務省力化のためのシステム整備の推進を図る。教職員の合意を得るための講習会を実施する。	
88	自己点検・評価	外部評価機関の活用	日本高等教育評価機構による認証評価受審		評価委員会、総務部：◎	◆評価委員会、総務部 令和4（2022）年度への受審に向け、新基準での自己点検評価書の作成準備に着手した。		◆大学評価委員会 令和2年度の自己点検評価を、新基準にて作成する。令和3年7月に受審申請を行う。	
89	自己点検・評価	自己点検・評価の実施	中期計画、年度計画について、各部署において、自己点検・評価を実施するとともに学長を中心とした評価委員会が適切な進捗管理を実施。	◆評価委員会、総務部 引き続き、年度計画について、評価委員会が進捗状況を管理し着実な計画の遂行。	評価委員会、総務部：◎	◆評価委員会、総務部 2019年度の実施状況及び2020年度以降の計画（PDCAサイクル）について取りまとめ、大学協議会の審議を経て、理事会に諮り承認を得た。その結果を踏まえ、HPIにおいても情報公開を行った。	◆評価委員会、総務部 引き続き、年度計画について、評価委員会が進捗状況を管理し着実な計画の遂行。		
90	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	シミュレーション・ラボの整備及び有効活用	◆看護学科 引き続き、シミュレーションラボの運用・評価。	看護学科：○	◆看護学科 実習室を改修し、シミュレーションルームを整備した	◆看護学科 引き続き、シミュレーションラボの運用・評価。		
91	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	既存施設・設備の調査による状況的確な把握。その結果に基づく保守管理計画を策定し維持保全を推進。	◆総務部 保守管理計画に基づき、優先度の高いものから整備等の実施。	総務部：○	◆総務部 点検結果を基に施設設備の現状を的確に把握し、必要な箇所については適宜修繕を実施し、キャンパス環境の整備を行った。 中期的な設備保守管理計画の策定はできなかった。	◆総務部 前年度に引き続き、計画を推進。	◆総務部 2020年度に実施した調査・点検を基に、保守管理計画及び予算計画の策定する。	

P D C A サイクル表 (2 0 2 0 年度自己評価・中長期計画一覧表)

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
92	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	防災設備	◆総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	総務部：○	◆総務部 点検の結果、2020年度は一部の消耗品の交換を行い、施設の維持に努めた。 2021年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。	◆総務部、財務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。		
93	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	衛生設備	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	総務部：○	◆総務部 点検の結果、2020年度は故障等の異常が確認できなかったため、2021年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。		
94	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	電気設備	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	総務部：○	◆総務部 点検の結果、2020年度は故障等の異常が確認できなかったため、2021年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。		
95	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	建築設備	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。	総務部：○	◆総務部 点検の結果、設備の一部に経年劣化による故障が認められたため、修繕を実施。2021年度以降、引き続き点検を実施し、必要に応じた対応を行えるよう、準備する。	◆総務部 引き続き、定期点検実施とともに、常に必要に応じた施設設備の故障及び経年変化に迅速に対応するための準備及び点検を実施。		
96	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	既存の安全管理・危機管理（リスクマネジメント）体制の検証及び体制の見直しや強化を推進。また、マニュアル等の改訂及び周知徹底を促進。	◆危機管理委員会、防災対策委員課、総務部 必要に応じ、安全管理・危機管理体制やマニュアル等を改善。	危機管理委員会、 防災対策委員会、 総務部：○	◆危機管理委員会、防災対策委員会、総務部 既存の安全管理・危機管理体制を見直し、マニュアル等を改定するため、前年度に引き続き情報の収集を行った。しかし、策定にあたって参考とすべく情報量が少なく、また、例えば他大学のホームページに掲載されている情報も策定後数年を経過しているため、最新の情報が得られなかった。その結果、一部見直しを進めものの完成までは至っていない。	◆危機管理委員会、防災対策委員課、総務部 必要に応じ、安全管理・危機管理体制やマニュアル等を改善。	◆危機管理委員会、防災対策委員課、総務部 コロナ対応での経験を踏まえ、安全管理・危機管理体制の見直しを行い、マニュアル等の改定を行う。	
97	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	備蓄	◆危機管理委員会、防災対策委員会 引き続き、震災時などに対する備蓄。	危機管理委員会、 防災対策委員会、 総務部：○	◆危機管理委員会、防災対策委員会、総務部 非常用の飲料水として2Lのペットボトル水を552本備蓄している 2020年度は新たに災害用トイレを500個と水害対策用防水袋を100個購入した。	◆危機管理委員会、防災対策委員会 引き続き、震災時などに対する備蓄。	◆危機管理委員会、防災対策委員会 引き続き、震災時などに対する備蓄の見直しを行う。	
98	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	守衛、防犯カメラ	◆事務局 引き続き防犯カメラの入れ替えを検討	事務局：○	◆事務局 防犯カメラは開学時に設置したため、すでに10年以上を経過しており、カメラの劣化やレコーダーが録画されていないなどの不具合が生じているため、2業者から見積もりを取り、入れ替えに向けて検討中。		◆事務局 引き続き防犯カメラの入れ替えを検討	
99	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	学外への業務データ保管・二重化	◆情報センター 業者と費用の調査開始。	情報センター：○	◆情報センター 日本IBMよりハイブリッドクラウド、コンテナ化を1台で実現したフラッシュシステムについて提案をいただいた。	◆情報センター 設計を確定、予算と施工業者を決める。	◆情報センター 108の設計に組み込めないか、調査検討する。設計と実施計画書を策定する。	
100	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	研究環境の整備						
101	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	課外活動団体の部室確保	◆学生委員会 サークル活動の活性化支援について検討。	学生委員会：一	◆学生委員会 コロナ禍にあって、サークル活動の活性化支援の検討は進んでいない。	◆学生委員会 引き続き、サークル活動の活性化支援について検討。		
102	キャンパス整備・危機管理	キャンパスの総合整備	ネットワーク関係の整備	◆情報センター 学内すべての施設での無線LAN使用可。 開学時より使用してきた基幹ネットワーク(有線LAN)の整備完了。 高速で安定し、かつ高セキュリティな対外接続を維持するため、対外接続用のルーター・ファイアウォールの更新の検討を開始。	情報センター：○	◆情報センター 無線LANは保健管理センター、入試センターでは使用できない。その他一部の教室で稀に無線LANの接続が不安定になる。 基幹ネットワーク(有線LAN)の整備は予定通り完了した。 対外接続用のルーター・ファイアウォールの更新に必要な費用を見積もり2021年度予算に計上した。	◆情報センター 現在接続している回線(SINET5)が終了する年度。次期SINETへの円滑な移行を実施。 対外接続用のルーター・ファイアウォールの次期の仕様を確定。		

P D C A サイクル表 (2 0 2 0 年度自己評価・中長期計画一覧表)

No.	大項目	中項目	小項目	2020年度	実施結果		2021年度	2021年度計画に 変更がある場合記入	備考
					評価 (◎、○、△、×)	コメント			
103	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	附属鍼灸センター	◆附属鍼灸センター 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力。	鍼灸学科：○	◆鍼灸学科 コロナ感染下における健康増進に関する情報提供を目的に大学ホームページ上に「からだと心を癒す-ツボ押しセルフケア-」のサイトを立ち上げ鍼灸の成果や健康法について啓蒙した。しかし、これまで実施してきた中高校生を対象とした治療体験、大学祭、有明祭り、古石場文化センターまつり、豊洲フェスティバル、NHKサイエンススタジアム2020、スポーツ医科学フェスティバルでの鍼灸ブース出店などにおける治療体験や健康相談など、すべての企画はコロナ感染の影響で実施できなかった。	◆附属鍼灸センター 引き続き、鍼灸治療体験や健康相談等による地域協力。		
104	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	附属鍼灸センター	◆附属鍼灸センター 引き続き、研究 附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	附属鍼灸センター：○	◆附属鍼灸センター 聖路加国際病院、まつしま病院、ひもろぎクリニック他の医療機関と患者の相互依頼を行った。	◆附属鍼灸センター 引き続き、研究 附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。		
105	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	附属鍼灸センター	◆附属鍼灸センター 引き続き、附属鍼灸センターの地域向け公開講座等イベント開催。	附属鍼灸センター：-	◆附属鍼灸センター 大学祭、有明祭り、豊洲フェスティバルなどにおける鍼灸ブースの出店や地域イベントでの治療体験などの、鍼灸に関する情報発信、啓蒙活動は、コロナ感染症の影響ため実施できなかった。コロナ感染下における健康増進を目的に大学ホームページ上に「からだと心を癒す-ツボ押しセルフケア-」のサイトを立ち上げた。	◆附属鍼灸センター 引き続き、附属鍼灸センターの地域向け公開講座等イベント開催。		
106	キャンパス整備・危機管理	社会貢献・文化活動の推進	区民公開講座の開催	◆看護学科 引き続き、区民公開講座の開催。	看護学科：×	◆看護学科 コロナ感染症の影響で区民公開講座は開催できなかった。	◆看護学科 引き続き、区民公開講座の開催。		
107	キャンパス整備・危機管理	附属接骨センターの充実	人的・設備環境の整備	◆附属接骨センター 引き続き、患者が安心して来院できる様、新たな人材の登用。 引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。	附属接骨センター：◎	◆附属接骨センター 柔道整復師の資格を持つ教員および大学院生が患者の施術に当たっている。また施術所内における各治療スペースは、パーテーションで隔てており、患者のプライバシー保護に十分配慮している。	◆附属接骨センター 引き続き、患者が安心して来院できる様、新たな人材の登用。 引き続き、患者のプライバシー保護をさらに配慮した環境整備の促進。		
108	キャンパス整備・危機管理	サーバの整備		◆情報センター 認証基盤、ファイルサーバの更新の検討を開始。	情報センター：○	◆情報センター 学術認証フェデレーションの認証サーバを購入した。 ポストワランティサービスが終了するHPサーバについて、新サーバ入れかえ方針を決める。	◆情報センター 認証基盤、ファイルサーバの更新に着手。		
109	キャンパス整備・危機管理	職員の業務用PCの整備		◆情報センター Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。	情報センター：△	◆情報センター 計画通り調査を実施した。 Windows10は引き続きWindows Updateで更新プログラムが提供されることを確認した。 引き続き職員の業務用PCの整備を行う。	◆情報センター 引き続き、Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。		
110	キャンパス整備・危機管理	コンピュータ教室	老朽化した機器の入れ替え	◆情報センター 開学時より使用しているプロジェクトの入れ替えを検討。	情報センター：○	◆情報センター 製品の仕様を検討し設計を行った。	◆情報センター プロジェクトの入れ替えを実施。		
111	キャンパス整備・危機管理	セキュリティ対策	セキュリティ対策	◆情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。	情報センター：○	◆情報センター 文部科学省CSIRT研修（応用編）に参加して、サイバーアタック後のフォレンジック調査の手法を習得した。クラウドサービスのリスクと品質保証（第三者認証）を調査し、解説用のプレゼン資料を作成した。	◆情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起・教育し、システム整備を実施。		
112	キャンパス整備・危機管理	安全衛生管理	安全衛生管理	◆衛生委員会 引き続き、職場巡視やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会で結果の調査、検討を実施、必要に応じて改善する。	衛生委員会：◎	◆衛生委員会 今年度のストレスチェックは、新型コロナウイルスの影響を受けた時期に実施したが、高ストレス者は前年度18.8%に対し、13.3%であり、業者平均13.5%と比較しても低い数値であった。 新型コロナウイルスの影響で健康診断が6月に延期したが問題なく実施することができた。	◆衛生委員会 引き続き、職場巡視やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会で結果の調査、検討を実施、必要に応じて改善する。 ・ストレスチェックの集団分析結果に適した内容の講演会を開催する。 ・職場巡視を継続し、職場環境改善に努める。 ・地域の感染状況や学内の状況を併せ、適宜感染拡大防止策を見直していく。		